

最終公開審査対象応募案件改善アドバイス

2018年4月24日
COG2017 審査委員会

I. 総論

<ファイナリストチームへのメッセージ>

今回の最終公開審査案件では、市民／学生チームの地域課題解決の取組に対するコミットが高い評価につながりました。これら13案件の今後の課題は総じて、（１）アイデアの実現に向けての資金と人を含む体制的基礎の充実、学生主体チームについては実現に向けての持続可能な体制の構築が求められること、（２）COGでは社会的活動のアイデアを重要視しているが、アイデアの実現段階ではデジタル時代を踏まえて社会的活動のアイデアを支えるデータ活用アプリの有効な利用も資金的体制的なリソースの範囲で検討してみること、（３）アイデアの実現フェーズに移行するには（１）の体制問題に加えて、①デザイン思考によるアイデアの再検証、②実現可能性調査、③アプリに利用可能なデータの収集、などに気を配って着実に進めて欲しいと思います。

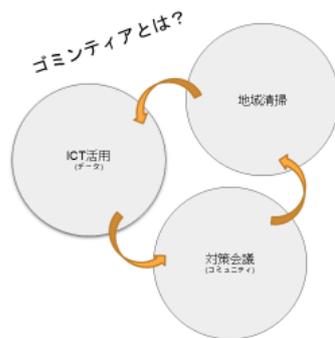
これから一年後、二年後にその進化のプロセス、実施のプロセスをご報告いただけることを心待ちにしております。「チャレンジ！！オープンガバナンス2017フェーズ2」として、実施に向けてのチャレンジです。アイデアが実り、地域の課題解決に貢献していかれることを願っております。

ゴミ拾いコミュニティからはじまる地域づくり

（応募チーム：ゴミンティア）

（特徴）

このアイデアは、全国に広がりつつあるゴミ拾いのボランティア活動（グリーンバード等）の活動に参加しつつ、単なる地域清掃ではなく、そこからゴミにまつわる属性（場所の特性、ゴミの種類など）をデータ化して、対策会議を開き、ゴミ発生の根本原因を探ってゴミ減量対策をはじめとする地域課題を検討しようという仕組みに特徴がある。ゴミンティアの中心となって記録係などを進めているのは中学生であり、それを支えているのはエンジニアなど多彩な経歴を持ちこのプロジェクトに賛同しているボランティアである。



(アドバイス)

(1) 活動の持続性

目下はボランティアの熱意で進められていますが、この活動が持続していくためには、リーダーと参加者の継続的発掘と養成が必要ではないでしょうか。このため、リーダーは状況に応じて子供と大人の交代制など柔軟に対応していく仕組み、子供リーダーの場合のサポーターの継続的支援、参加者の確保について、実績を踏まえながら、活動体制についても対策会議で定期的に議論し次に備えていくことが望ましいと思われれます。なお、井土ヶ谷地区の活動の拠点は地元の企業の CSR 活動の一環として提供されているが、このような地域活動への地元企業のサポートは大変評価し、今後も持続発展していくことを期待いたします。

(2) ゴミデータ分析、対策の実施、成果の分析への体系的取組

ゴミにまつわる属性データのデジタル化、対策会議で合意した地域課題の解決の実施とその成果の分析、まで体系的に手掛けていくことが重要だと思われれます。このため、全体の進捗の見える化で進捗状況と課題や次の手順を広く共有できるウェブサイトやアプリがあるとさらに良いかと思われれます。

(3) ゴミンティアの他地域での展開や連携に向けた取組

今のゴミンティアは横浜の井土ヶ谷地区、杉田地区を中心にして、実質一つのチームが取り組んでいるが、将来はゴミンティアをモデル化して、他地域でも容易に展開できるようマニュアル作りに挑戦されるのも良いかと思われれます。またさらに、学校の教育課程や自治体の政策との連携の模索も今後の取組として検討されては如何でしょうか。-これに関連して横浜市のSNS「ありがとう！ヨコハマクリーンアップ」への投稿などもいいのではないかと思われれます。